

も く じ

■ Web版DOORSがかわりました □ ～統合検索機能と多言語表示機能～	▶ 1
■ 所蔵資料紹介 □ ～Kan'ichi Asakawa papers (朝河貫一文書) マイクロフィルム～	▶ 4
■ 大宅壮一文庫雑誌記事索引の検索が簡単に！	▶ 5
■ 両校地図書館の施設改善について	▶ 6
■ 情報システム室からのお知らせ	▶ 7
■ 図書館からのお知らせ	▶ 8

★★Web版DOORSがかわりました～統合検索機能と多言語表示機能～★★

膨大な、そしてさらに増え続ける資料を所蔵する図書館。その中で資料を検索するために、オンライン目録検索システム(OPAC)はいまや図書館にとって欠かせません。本学図書館においても、1991年に専用端末を用いた蔵書検索システムDOORSの稼働にはじまり、1999年にはWeb版DOORSを公開し、学内外はもちろん世界中から所蔵資料の検索ができるようになりました。

このたび、この「Web版DOORS」に新しい機能が加わりました。これまで表示できなかった中国語などの表示ができる「多言語表示機能」と、従来の情報に加えて他大学の所蔵情報や資料のより詳細な情報を表示する「統合検索機能」です。

一例を挙げると、検索した資料の「目次・あらすじ情報」を参照することで資料そのものにあたるよりも早く資料の概略を知ることができ、さらに本学以外の所蔵状況も同時に検索することができます。みなさんの勉学・研究に大いに活用してください。

以下にその概要をご紹介します。

◆ 統合検索とは ◆

統合検索とは、Web版DOORSを他のデータベースと連携させて横断的に検索する仕組みです。これにより、一度の検索で従来の情報に加え、さまざまな情報を参照できるようになります。今回統合検索の対象となったのは、以下のデータベースです。

①同志社OPAC

従来のWeb版DOORS。同志社大学および同志社女子大学の所蔵情報が参照できます。

②京都大学OPAC

近隣大学として訪問による閲覧申込が多い大学です。

③早稲田大学OPAC

相互利用協定を結んでおり、他大学に比して有利な条件でサービスが可能です。

④NACSIS Webcat

最も一般的な国内大学および研究機関の所蔵目録です。国内各大学の所蔵情報を一括検索できます。

⑤BOOKPLUS

日本国内の全出版物（一部を除く）の目次およびあらすじ情報を参照できます。

⑥MAGAZINEPLUS

日外アソシエーツ社が提供する日本国内最大の雑誌・論文情報データベース。学術論文や雑誌記事の索引情報を参照できます。

★ 各OPACの横断検索 ★

Web版DOORSと京都大学OPAC、早稲田大学OPAC、NACSIS Webcatを連携させて同時に検索し所蔵状況を確認することができます。

★ 目次・あらすじ情報を表示 ★

Web版DOORSおよび京都大学や早稲田大学のOPAC、NACSIS Webcatの検索結果に対して、BOOKPLUSの目次・あらすじ情報を表示させることができます。（※但し、ISBNを付与されている和書で、1986年以降発行のものが対象となります。）

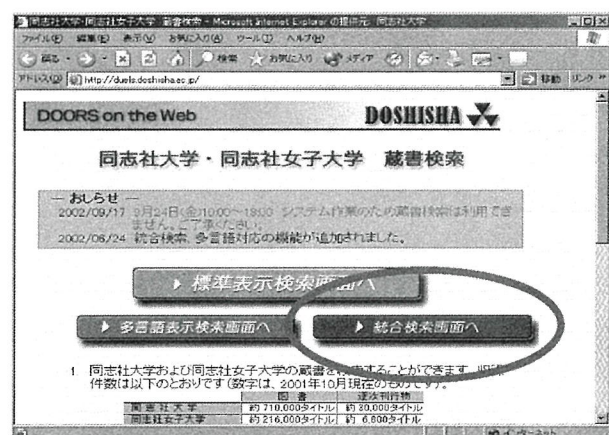
★ BOOKPLUS・MAGAZINEPLUS検索結果から本学の所蔵状況を確認

逆に、BOOKPLUS・MAGAZINEPLUSの検索結果に対して、本学の所蔵・所在状況を確認することができます。（※但し、ISBNを付与されている図書、ISSNを付与されている雑誌に限ります。）

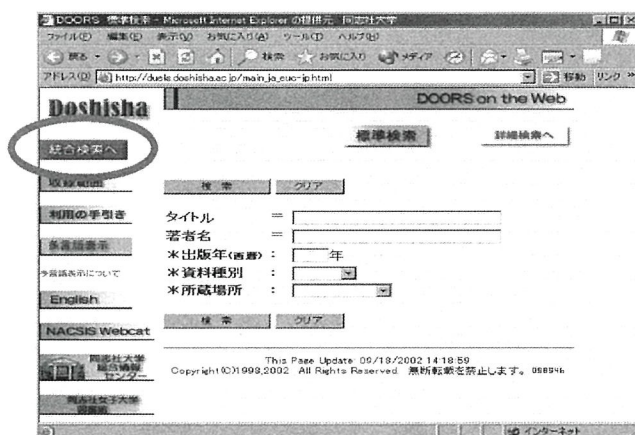
◆ 起動方法 ◆

(1)起動

① <http://duels.doshisha.ac.jp/>の[統合検索画面へ]をクリックしてください。

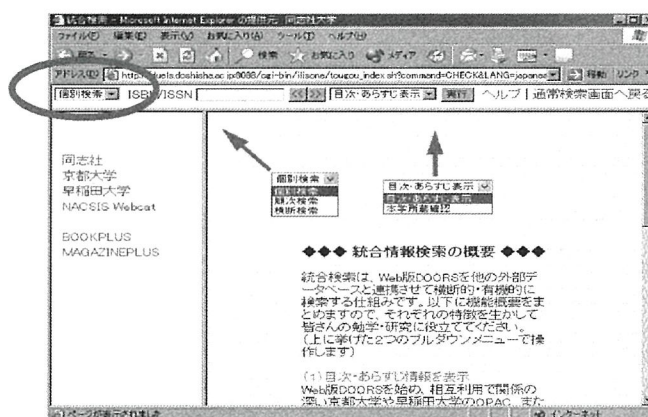


② Web 版DOORS標準表示検索画面の左上の[統合検索へ]をクリックしてください。

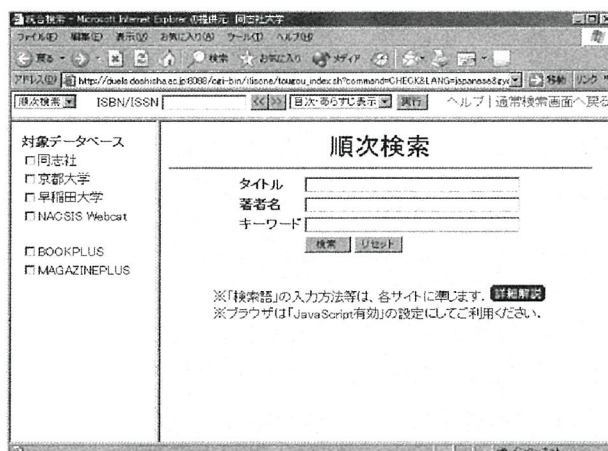


(2)統合検索初期画面

統合検索の初期画面が表示されます。検索機能（個別検索、順次検索、横断検索の3種類が用意されています）及び検索対象データベースを選択して、検索を行ってください。



(3)検索画面



◆ 検索機能 ◆

個別検索

各データベースを個別に検索し、その詳細画面から「目次・あらすじ表示」「本学所蔵確認」ができます。

順次検索

チェックを入れたデータベースを表示順に上から検索し、見つかったデータベースの検索結果を優先的に表示します。

横断検索

チェックを入れたデータベースごとのヒット件数を表示します。

順次検索との違いは、①件数を表示すること、②自動的に検索結果画面に遷移しないことの2点です。その他は順次検索と同じ機能です。

◆ 注意事項 ◆

- ・ BOOKPLUS,MAGAZINEPLUSとの連携については契約の制限のため、学内ネットワークまたは本学ネットワークへのダイヤルアップ接続でのみ利用できます（情報処理実習教室・演習室、オープン利用室、図書館内のPCコーナー・ラーネット記念図書館1F第2読書室に設置されているパソコンからでも利用できます）。外部プロバイダ経由ではBOOKPLUS,MAGAZINEPLUSは表示されません。
- ・ 図書館内の目録検索端末(DOORSコーナー等)、各研究室の目録検索端末の一部では利用できません。
- ・ 統合検索機能は、統合検索画面上でのみ有効です。直接各データベースへアクセスした場合は、統合検索機能は使えません。
- ・ 貸出中などの状態情報は、データベースごとに表示内容に違いがあります。
- ・ 検索のキーワードの入力方法は各データベースに準じます。詳しくは「順次検索・横断検索時の留意点」をご覧ください。
(http://duels.doshisha.ac.jp:8088/ilisone/tougou_shosai.html)
- ・ ブラウザは「JavaScript有効」の設定にしてください。

◆ 詳細については ◆

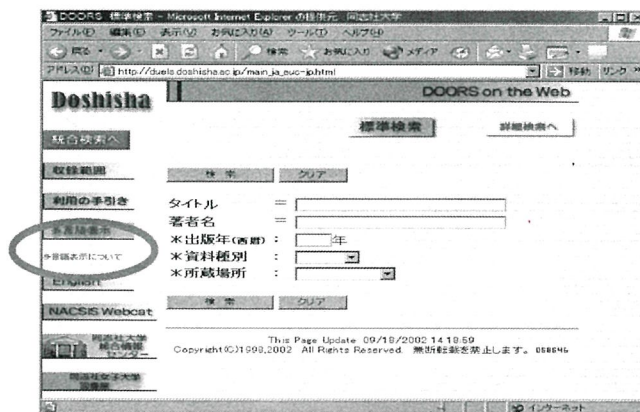
各検索機能および検索方法の詳細は、web上のマニュアルをご覧ください。

(<http://duels.doshisha.ac.jp:8088/ilisone/pdf/manual.pdf>)

またはカウンターへお気軽にお尋ねください。

◆ 多言語表示機能について ◆

検索結果の書誌データに含まれている、中国語などの多言語文字を正しく表示することができるようになりました。



多言語表示モードを利用するにはUCS文字セット対応のブラウザの準備が必要となります。詳細は、「多言語表示について」の画面をご覧ください。
(http://duels.doshisha.ac.jp/hlp/japanese/tagengo_ja_help.html)

◆ 希望の資料が見つかったら ◆

検索の結果、希望の資料が他大学の所蔵である場合、相互利用サービスにより所蔵館を訪問しての閲覧利用や必要箇所の複写の取寄せができます。

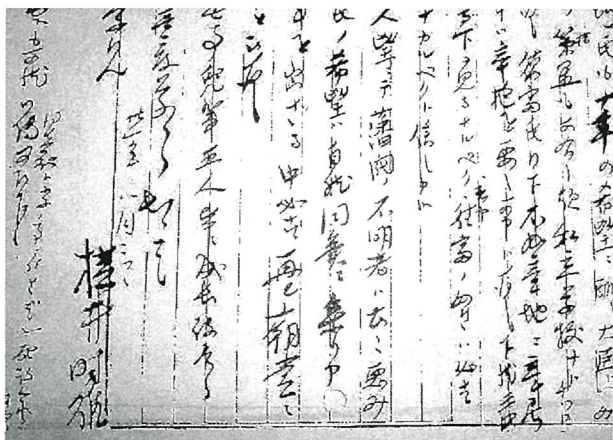
閲覧利用については、本学図書館から所蔵大学へ申込み、所蔵館の了承を得た上で紹介状を発行します。相互利用協定を締結している大学については一部例外の場合もありますが、基本的にはレファレンスカウンターでの申込みが必要です。

近隣に所蔵館が無い場合は、複写物の取寄せができます。また、資料を本学図書館に借用して館内で閲覧することが可能な場合もあります。ただし郵送料や複写料は申込者の実費負担となります。また、著作権法による利用上の制限があります。いずれの場合にもレファレンスカウンターまでお気軽にご相談ください。

大宅壮一文庫雑誌記事 索引の検索が簡単に！

【朝河と同志社】

ここで朝河と同志社の関係について少し触れてみたいと思います。前述したように朝河は東京専門学校に進学しますが、そこで同志社出身で早稲田の礎を築いた大西^{おおにし} 祝^{はじめ}の薫陶を受け、更に東京本郷教会にて後に同志社総長となる横井時雄^{とくとみ そほう}から洗礼を受けています。卒業後は徳富蘇峰主筆の民友社「国民新聞」に寄稿し、大西・横井・蘇峰等の篤い援助を受けてダートマス大学への留学を実現しています。また、イエール大学、米国議会図書館の日本関係図書収集に際しては、イエール大学の同級生で、のちに同志社総長も努めた牧野虎次も協力しています。このような関係から朝河の残した往復書簡には初期同志社関係者のものが数多く含まれています。その中から第3代総長横井時雄が朝河に宛てた1898年の手紙の一部を紹介しましょう。横井からの手紙には「何とか同志社を一私立大学として天下に恥じざるもの」とするべく奔走している近況と、「その道は相当険しいが、直面する難局を打開したい」気持ちが続けられています。



《横井時雄が朝河に宛てた手紙》

イエール大学では朝河が残した私文書を、第二次世界大戦後に大学アーカイヴズ（公文書保管所）に受け入れたということです。そして初期同志社関係者の書簡が多数含まれていることから、この度イエール大学にマイクロフィルムの複写を依頼し、同志社大学にも一部所蔵することになりました。

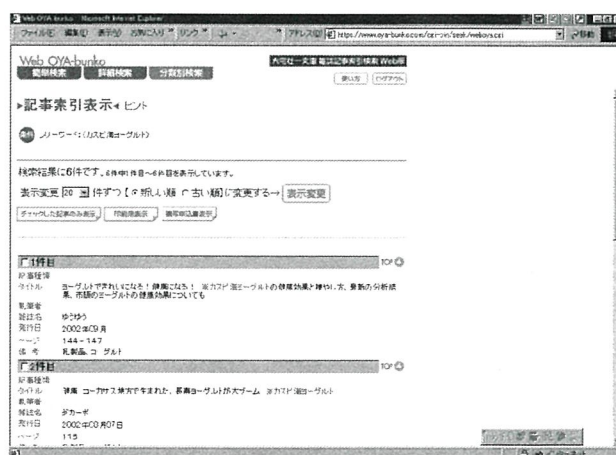
『大宅壮一文庫雑誌記事索引』がCD-ROMからWeb版に移行して検索しやすくなりました。ホームページ（図書館／データベースの利用）からアクセスできます。

[<http://www.oya-bunko.com>]

大宅壮一文庫は、評論家大宅壮一が力を尽くして収集した雑誌の図書館です。一般大衆の中に浸透していた雑誌のような資料にこそ、当時の民衆のあり様を見てとることができると考えていた大宅氏だけに、この文庫には大衆娯楽誌を中心に、明治時代から現在までの約1万タイトル・60万冊もの雑誌が収められており、一味違う特色をもっています。

このデータベースでは、そのうち約370タイトルの1988年以降の雑誌記事（雑誌名・記事見出し・執筆者・キーワードなどを抽出したもの）について検索できます。

詳細検索では、執筆者や記事種類（インタビュー／対談）などの条件を加えて調べることも可能です。さらに、文庫が独自に分類した、人名・職業ジャンル・件名について一覧から選択し検索することで、調べたい事柄を適切な分類の基に検索できるようになっています。



なお、明治時代～1995年の記事については、人名・件名ごとに冊子体で調べることも可能です。『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』

（請求記号027.5 O478両校地参考室）

両校地図書館の 施設改善について

今出川図書館から

■ 開架閲覧室の照明改善

昨年に引き続き、今回は開架閲覧室の照明を改善しました。開架閲覧室は従来から照明器具は多いものの、ルーバー（ブラインド）で直接照射を避け外光との調和を図ることで、落ち着いた雰囲気を出していました。しかし、雨の日や夜間の資料閲覧には暗いとの指摘がありました。

今回、天井を張り替え、器具をより明るいものに交換して照度をアップしました。昨年度から行ってきた改修により、館内の照明は全て明るく快適になりました。

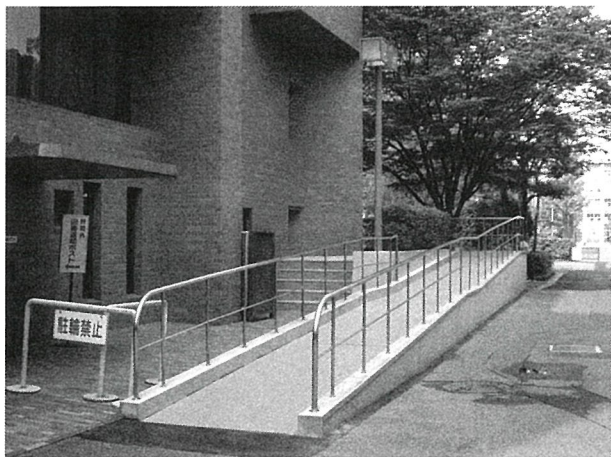
■ 館内のバリアフリー化進む

1. 図書館東側にスロープを設置

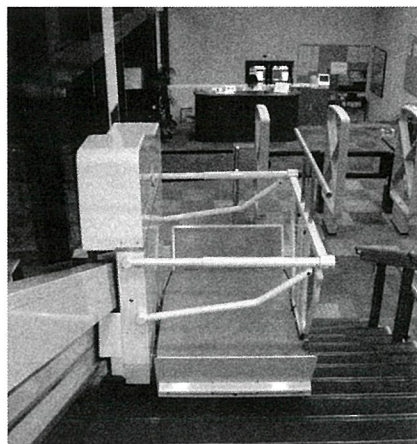
これまで西門側の1箇所のみであったスロープに加えて、図書館建物の東側、明德館・徳照館との間に新たにスロープを設置しました。

2. 正面玄関～メインフロア間に電動リフト設置

図書館玄関からメインカウンター・パソコンコーナーなどのあるメインフロアに行くために、リフトを設置しました。操作はとても簡単です。気軽にフロントの係員に声をかけてください。なお、マルチメディアライブラリ（地階）や2階へはメインフロアからエレベータで行くことができます。



スロープ



電動リフト

3. トイレの改修

メインフロアコピーコーナー奥のトイレ（車椅子用）の入口が自動ドアになりました。入口脇のセンサーに手をかざすとドアが開き、照明が点灯します。

ラーネッド記念図書館から

■ 閲覧座席設置、書庫スペース拡張

10月よりラーネッド記念図書館1階書庫を開架閲覧スペースとして開放し、新たに閲覧座席48席を設けました。自然光を十分にとり入れ、明るく気持ちのよいスペースとしました。特に試験期の混雑が解消され、より多くの学生に利用していただけたと思います。書庫は階上部分と階下部分に分かれ、書庫（階上）には雑誌・新聞縮刷版等のバックナンバー、洋書全般を、書庫（階下）には利用の少なくなった一般図書・参考図書を集めて配架しました。



閲覧施設

お知らせ

Linux教室の認証について

■ Linuxが使えるパソコンが増えました。

昨年度秋学期より、一部の教室でLinux（リナックス）の環境を提供してきましたが、Linuxの利用者が増えていることに対応するため、両校地にLinuxとWindowsNTとのデュアルブート方式のパソコンを大幅に増設しました。

従来と同様、起動するとOSの選択画面が現れ、WindowsNTかLinuxを選択するようになっています。また、これまでLinux専用のユーザIDやパスワードが別途必要でしたが、これを廃止し、メールや情報処理実習教室等のパソコンを利用する際のユーザIDとパスワードで、Linuxにログインできるようになりました。

情報システム室では、Linux環境を初めて利用する方を対象にした簡易なマニュアルを用意していますので、活用してください。

Linux利用可能な環境は以下のとおり

京田辺校地	恵道館101～106 (KD101～106) 恵道館オープン利用室 頌真館101・102 (TS101・102)
今出川校地	寧静館21～23 (N21～23) 寧静館オープン利用室 寧静館地下3 (N地3)

ウイルススキャンの機能強化

ネットワークの利用が進み、コンピュータウイルスの被害が非常に身近な問題となっています。ウイルスの怖いところは、利用しているコンピュータが感染することにより自分が被害者になると同時に、感染した状態でコンピュータを利用すると自分が知らない間に加害者になる可能性があるという点です。

本学では学内のメールサーバ（mail,mail2,mail3,mail4）と学外のメールサーバ間で送受信される電子メールがウイルスに感染していないかをチェックするシステムを導入していますが、この

たび、より一層のウイルス対策強化として、学内のメールサーバ（mail,mail2,mail3,mail4）内で送受信される電子メールにおいてもチェックを行なうよう、システムの機能強化を図りました。これにより本学のメールアドレス同士での送受信もチェックできるようになりました。

■ ウイルスが検知された場合は、警告メールが送信されます。

警告メール（受信者へ送信される内容）

[題 名] VirusAlert
[差出人] InterScan@ginger.doshisha.ac.jp
(もしくはInterScan@mail.doshisha.ac.jp)
[本 文] InterScan has detected a
virus[ウイルス名]in your mail(from[送信者]
file:[ファイル名])traffic.[日時] action[処理方法].

これは、「送信者からのメールにウイルスを検知したため、サーバ側で処理しました」という内容をあらわしています。

※[処理方法]

guarantined：実行ファイルそのものの削除
(ファイル自体も使用不可)
clean：ウイルス部分のみ削除
(ファイル自体は原則使用可)

■ 二重三重の防御を!!

ここでのウイルスチェックは電子メールを媒体としたものを対象としていますが、実際にはウイルスはフロッピーディスク等様々な媒体を経由して、コンピュータ内に侵入してきます。また、最新のウイルス情報によりチェックをおこないますが、新種ウイルスに対しては対応が間に合わない可能性もあります。

その意味では、このシステムのみで対策は万全というものではありません。各自のパソコンでもウイルススキャンソフトを導入する等、二重三重の防御を心がけてください。

「日・EUフレンドシップウイーク

at 同志社大学」の様子をWebで見よう！

今年5月に開催し好評を得た「日・EUフレンドシップウイーク at 同志社大学」の公開講演会・シンポジウム・ユーロパネル展およびEU資料展の映像・画像をWeb上で公開しています。

(http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/library/eu/fw/eu_j.html)

なお、コンテンツの再生にはRealPlayer TM8以降のバージョンが必要です。

今出川図書館閉架書庫の資料が移動しました

閉架書庫（3階）北部分には、図書のうち分類200番台および300番台と、旧分類の資料が配架されていきました。資料増加に伴う書架不足から、一部の分類を別置しており利用者みなさんにはご不便をおかけしていましたが、この度全ての分類が統一されたので、3階北書庫の資料の移動を行い資料配置に余裕をもたせました。これに伴い配架場所が若干変わっています。入庫利用の際には、書架毎の案内表示を参照してご利用ください。

今出川図書館内の閲覧室に辞書を配置

今出川図書館内の第1～第4の各閲覧室に各種辞書を配置しました。国語辞典をはじめ、英・独・仏・中・西・露語およびハングルの辞書です。また、従来から第3閲覧室に配置していた辞書も新版に替えました。各閲覧室内で自由に利用できます（館外持出はできません）。利用者みなさんでゆずりあって勉学の助けにしてください。なお、利用後は書架に戻してください。

新たに12万冊がDOORSで検索可能に

■ 今出川図書館所蔵分の遡及入力作業がほぼ完了

本学の蔵書検索システムDOORSでは、1964年4月以降に受け入れた資料の情報、約180万件が検索できます。しかし、それより前に受け入れた資料は、現行とは異なる分類法が使用され、しかもカード目録で探さなければなりません。その不便さを解消するため、総合情報センターでは、手作業によるカード目録作成済みの資料データを過去に遡って電算化し、現行の分類法（日本十進分類法）への切り替えを行う「遡及入力作業」に取り組んでいます。

今出川図書館所蔵の当該資料については1999年6月から遡及入力準備に取りかかり、2000年4月から実質的な入力を開始しました。これまでに貴重室配架分を除く約12万冊の入力が終了し、DOORSで検索できるようになりました。貴重室配架分も今年度末の終了を見込んでいます。今後は、各学部・研究所、講武館書庫の約20万冊の遡及入力を進める予定です。

■ 資料を探しやすい環境が整いました

今出川図書館では、遡及入力がほぼ終了したことにより、これまで新分類、旧分類と分けて配架されていた資料が一緒に並びます。また、「DOORSで調べて、カード目録も調べて…」といった手間も省けます。今回遡及入力された資料の中には、資料的価値の高いものが数多くあり、学内での利用にとどまらず、ILL（図書館間相互利用）などで広く活用されることが期待されます。

同志社大学総合情報センター報 No.24

(2002年11月1日発行)

編集・発行 同志社大学総合情報センター

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL075-251-3960